

事例 公益的機能の発揮に向けた広葉樹導入の取組

近畿中国森林管理局では、水源涵養機能^{かん}の発揮を目的に、適切に間伐等を実施するとともに、様々な樹種・樹齢の樹木がバランス良く配置されるよう、伐採・更新^{*}・保育^{*}の各段階において積極的に広葉樹を導入する取組を行っています。

具体的には、伐採・搬出の支障とならない高木性広葉樹を保残する施業、潔癖な下刈^{*}や除伐^{*}を避け、萌芽や天然下種によって生育した広葉樹について、植栽木との競合を考慮しつつ、保残・育成する施業等に取り組んでいます。

現地検討会等を通じ、担当職員への浸透を図りつつ、今後も公益的機能を重視した森林施業を推進することとしています。

(近畿中国森林管理局 広島北部森林管理署)



場所：広島県神石郡神石高原町^{じんせきぐんじんせきこうげんちやう} ヨナシ山国有林ほか^{やま}

説明：写真は、皆伐時に広葉樹を保残させた状況（左）と、地拵え^{*}時に広葉樹を保残させた造林地の状況（右）です。